

令和4年8月3日 北海道地方路線問題調査特別委員会 開催状況

開催年月日 令和4年8月3日

質問者 日本共産党 真下 紀子 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質問要旨	答弁要旨
<p>一 留萌本線沿線自治体会議の開催結果について</p> <p>J R北海道からの提案については、J R北海道の赤字削減が最優先をされていて、地域の公共交通の利便性や継続性、住民負担の増加などの検証が十分行われたのかどうかという点では、私は非常に疑問を持っています。また、このJ Rからの提案の文書を見てみますと、通学生が「大宗」と書いてあるんですね。「大宗」というのは一般的には使われていなくて業界用語とされていて、住民に対してわかりやすく説明する気があるのかと疑いを持っても仕方がないような表現がなされていたことを指摘しておきたいと思います。</p> <p>(一) 新たな交通体系のメリットなどについて</p> <p>新たな交通体系に移行するメリットは何なのか。鉄道が利用できなくなることで交通弱者にどのような影響があるのかなどをきちんと把握した上で、提案を受け止めたのか、道としての見解をお聞きします。</p> <p>つまり、利用者の利便性や 速達性については課題があるということを自ら吐露したわけですね。</p> <p>(二) これまでの利用拡大努力と廃線決定について</p> <p>これまでの利用状況の中で、留萌本線は留萌市立病院の近くを通過していて、ここに乗降場所ができれば利用が増えるのではないかという声もずいぶん前からあったようですけれども、こうした利用拡大への努力というのは、J R北海道側からも、そして道においても行われてこなかったと考えております。沿線自治体は色々と頑張ってきているんですけれども、J R北海道の廃線先にありきの考え方が優先されていたからではないかと考えるわけですが、この点について伺います。</p>	<p>【公共交通支援担当課長】</p> <p>新たな交通体系の検討についてであります。この度のJR北海道からの提案については、留萌線の利用状況やJRの厳しい経営状況を踏まえつつ、代替交通の確保に向けた一定の支援を行うことについて、地域に示されたものと承知しております。新たな交通体系の構築については、今後、地域とJRにおける具体の協議が進められていくこととなりますが、これまでの検討の中で、地域からは、通院や通学をはじめとする利用者の利便性のほか、速達性にも配慮した交通体系を求められていることから、道としては、引き続き、地域における検討・協議の場に参画し、必要な情報提供や助言を行ってまいります。</p> <p>【公共交通支援担当課長】</p> <p>これまでの地域における取組についてであります。留萌線の沿線自治体においては、これまでの間、地域交通やまちづくりを考えるシンポジウムやセミナー開催、住民向けのアンケート実施など、地域住民のみならず、関係者による公共交通のあり方に関する協議が行われてきたほか、北空知地域では、今後の地域交通の姿を示す公共交通計画の策定を進めてきたところです。道としては、こうした自治体における議論を踏まえながら、引き続き、地域における最適な公共交通のあり方について、議論を尽くしてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>私が聞いたのは、利用拡大の努力はどうなっていたのかということを知っているわけですよね。しかし、アンケートを採ったり、セミナーを開催したりと言っているけれども、これはやっぱり鉄道を廃線して新たな交通体系をどうするかということが考え方の起点にあるわけです。沿線自治体は通学生に補助金を出したりとか、様々な利用拡大の努力をしてきました。しかし、道のほうはJRと一緒に廃線前提で別の交通体系の議論が先行していて、鉄道利用を働きかけるなどの工夫が十分なされていたとは言えないという状況だということに厳しく指摘したいと思います。そのことが廃線につながっていくという流れに繋がりがかねない状況だったのではないかと考えるわけです。</p> <p>（三）住民負担の見通しについて</p> <p>今回、廃線に伴って18年間支援策をとるといふようなJR北からの提案なんですけれども、自分たちの経営努力が足りなくて赤字線区になっていて、それを守り切れないというJR北海道の道民に対する申し訳なさというのはいくらもありません。これから18年間支援策とるのだからいいんじゃないかみたいな、そういう感じが伝わってきます。しかし実際には利用料金は上げられるのではないかと。また通学生をはじめ、公共交通を使わざるを得ない住民の負担は増えないという保証はないわけですよね。この点についてはどうですか。</p> <p>やっぱりここでも、何かしてあげる的な雰囲気がありありと伝わってくるわけですけど、差額補てんなどとおっしゃいますけれども、これは期限付きの提案で、バスはやはり値段が高くなるというのは常識ですよね。そういうところに誘導する。結局、JRの赤字を住民負担を持って解消していくという方向に進んでいるんだというふうに思います。JRの真摯な姿勢というのは、本当に問われるもので、道が真摯な姿勢で対応するよう求めていくといっても、そういう点は今のところは全く伝わってきていないと申し上げておきたいと思っております。</p>	<p>【公共交通支援担当課長】</p> <p>利用者の負担についてであります。地域の将来を見据えた最適な交通体系の検討にあたっては、これまで沿線自治体、JR北海道、道において議論を重ねてきたほか、必要に応じて、バス事業者との意見交換を行っているところです。なお、バス転換を行った場合の利用者負担等については、これまでの事例においても、JRによる定期利用者の差額補てん等が措置されているところではあります。道としては、利用者負担への配慮を求める沿線自治体からの要望を踏まえ、JRが真摯な姿勢で地域と対応するよう求めてまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 代替案なき廃線提案について</p> <p>次に、深川から石狩沼田までは3年後の廃線を提案しているが、代替交通の設定は示されていません。見通しなくただ廃線だけが先にある、こうした代替交通がどうなるとどう利便性が高まって、速達性が高まるのか、そうした提案にはなっていないわけです。なぜこのような提案になったのでしょうか。</p> <p>JRと沿線自治体との円滑な協議と言いますが、住民の願いや利用への思い、鉄道の必要性の考え方、こうしたことをきちっと反映させた議論にしていかなないと、円滑に進むことだけを目的にしてしまえば、私は道を誤るんじゃないかというふうに思います。</p> <p>(五) 留萌までの存続の再検討について</p> <p>札幌から留萌までつながらなくなれば、海まで行けないわけですね。鉄道の魅力は大きく減退してしまいます。道はこれまでも十分な議論を重ねて、見切り発車はしない、そうした方向で来たはずで。そうであれば、アクションプランの対象外であっても、道も一緒に利用拡大を進めて、留萌までの存続も3年後まで見通して、検討すべきであると私は考えます。</p> <p>そしてJRが公表している資料でも、留萌線の輸送密度は20年と21年比較では減っていないわけです。JRは、指標として輸送密度は出していますが、乗車率は決して出しません。これまで私は、北海道新幹線を赤字比較の対象として議論してきたわけですが、乗車率は検討材料として示さざるべきではないでしょうか。</p> <p>また、JRが部分存続にあたって地域に求めている3億4500万円の負担が妥当なのか疑問があるし、バス転換ならば、ドライバー確保も大きな問題だと考えております。道としてJR側の赤字の主張だけでなく、公共交通として果たすべき役割について住民説明会でよく意見を聞いて、再検討する余地を残すべきだと考えますけどいかがですか。</p>	<p>【公共交通支援担当課長】</p> <p>JR北海道からの提案についてですが、今回の協議会においてJR北海道から示された考えは、深川～石狩沼田間の廃線にあたっては、石狩沼田～留萌間の廃線と比較し、沿線地域における通学の広域化や地元事業者の体制準備に時間を要するといった北空知地域の事情を踏まえたものであるとの説明があったところです。道としては、こうした提案は、留萌線固有の事情も勘案したものと考えていることから、引き続き、地域交通の確保に向けた、沿線自治体とJRの協議が円滑に進むよう、必要な調整を行ってまいります。</p> <p>【公共交通支援担当課長】</p> <p>留萌線の検討・協議についてですが、この度のJR北海道からの提案を踏まえ、沿線自治体においては、随時、住民説明会などを開催しているところですが、これまでに説明を終えた自治体からは、駅がなくなるのは寂しいと思うが、乗る人も少なく仕方ないと思うといった意見がある一方、代替交通になることで不便にならないのか心配であるといった声も挙がっていると伺っております。道といたしましては、今後とも、沿線自治体をはじめとする関係者の皆様と連携を図りながら、地域における利便性の高い持続的な地域交通の確保に向け取り組んでまいります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>セットで提案している廃止時期、セットで合意していくという方向だそうですが、何年か前に深川のエレベーター設置の問題で調査をしたときに、留萌本線沿線の方たちだけではなく、空知特有の、そのさらに周辺の町などから、駅まで車で乗ってきて、それで鉄道を利用するという方が非常に多くて、沿線自治体だけじゃないところからも署名が集まったんです。そうした空知の特別な鉄道利用の環境ということを考えると、沿線自治体じゃなくて、鉄道を利用している人の声、通院や免許返納で鉄道を利用したいという方がたくさんいらっしゃる、これから増えてくる可能性もあるわけですから、そうしたことも含めて住民の意見をよく聞いて、廃線ありきの姿勢ではなく、しっかりと公共交通としてのあり方というふうな考え方で対応していただきたいということを申し上げて質問を終わります。</p>	